

12歳のための小説すらすら講座

第5回 書き出しがカンジーン!

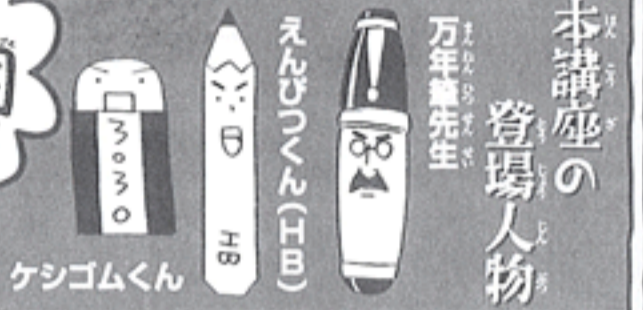
小説がす～らすら書けちゃう!?

この講座を参考にして、「12歳の文学賞」に作品を応募しよう!

監修/奈良裕明(作家)

89年「チンドン・ジャン」にて第13回すばる文学賞受賞。96年より「松涛スクール/文章の学校」に講師として参加。また、自治体主催の文章教室で、11歳から82歳まで指導した実績を持つ。著書に「小説を書くための基礎メソッド」(雷鳥社刊)など。

『小学五年生』で
大活躍中の
文具天国
メンバーだ!



ケシゴムくん

えんぴつくん(HB)

万年筆先生

本講座の
登場人物

始まりの部分で、
読む人き
むきつけな書き
いけないのか。

②ヒヤリ、ドキリ
◇印象づけ、は大切!
できれば1行目から、期待、不安、予感を示し、読み手に強烈なイメージがひとつ残るようにする。

③読み手には◇親切、に!
いつ、どこで、誰が、何を、どうした、なぜ、を記す。全部をハッキリ書く必要はないが、これから始まる物語で、何が問題になるのかわかりやすく読み手に知らせる。

①書き出しには◇ナゾ、を!
小説、とくに短編小説の場合は、冒頭のなるべく早い段階でわかりやすく「ナゾ」を提示すると、読み手はスッと物語のなかへ入ることができる。

これまで、小説のジャンル決めやあらすじづくりなどやってきましたね。さて、今回は実際に小説を書き始めよう。その前に、「大切」であるとともに、とても「難しい」小説の書き出しについて、ポイントをおさえてよう。



書き出しに必要な3要素!

頭ではわかるけど、
書くのは難しそう
だなま!



●以上をふまえ、次の各冒頭部分(書き出し)を読んでみよう!●

朝、目が覚めると泣いていた。いつものことだ。悲しいのかどうかさえ、もうわからない。涙と一緒に、感情はどこかへ流れていった。しばらく布団のなかでぼんやりしている
と、母がやって来て、「そろそろ起きなさい」と言った。



『世界の中心で、愛をさけぶ』片山恭一・小学館

「私は今夜、殺されます」
女の第二声を聞いた時、赤松直起は閃きに似た直感で確信した。これは悪戯電話ではない。局の代表番号にかかってきた電話は、交換手を通して赤松のデスクにつながった。女は名乗らないまま、端正な言葉遣いで、事務的に用件を切り出した。



『砦なき者』野沢尚・講談社文庫

皆さん
私は今大阪にいます、ですから大阪の話をしてしましよう。
昔、大阪の町へ奉公に来た男がありました。名は何と云ったかわかりません。唯飯炊奉公に来た男ですから、権助とだけ伝わっています。



『仙人』芥川龍之介・新潮文庫『蜘蛛の糸・杜子春』に収録

恋愛小説、ミステリー、年少文学とジャンルは違うが、いずれの作品も冒頭を読んだだけで、一気に引き込まれ、読み手はその先を読まずにはいられなくなる。この数行のなかに、のちに意味を持ち、テーマと密接にかかわる要素も入っているからだ。書き出しにはナゾ、印象づけがいかにか大事かわかったかな?